

報告 1

親子で寿司体験イベント 新潟の魅力を PR

7月20日、北京市内の日本料理店で寿司の魅力を体験するイベントが開催された。このイベントは北京市内の旅行社「尚流視界文化有限公司」が主催するもので、料理長が握る寿司をお手本に子供達が自ら寿司を握り家族みんなで楽しむというイベントだ。また、寿司体験と合わせて、参加者に新潟を紹介する時間も設けられており、当事務所より新潟のコシヒカリや新鮮な魚介類、それらを材料とした新潟限定の寿司「極み」など、美食を中心に新潟の魅力を PR した。当日は親子 8 組、合計 21 人が参加しイベントは大いに盛り上がった。

イベントを主催した旅行社からは、新潟を組み込んだ旅行モデルコース「東京・新潟・岩室 親子自然体験旅行」が来場者に紹介された。昨年秋以降、中国からの訪日旅行者が減っているが、こうしたイベントを通して少しでも多くの中国人に日本や新潟の魅力を伝え、実際に足を運んでもらえたらと思う。(笠原)



お父さんのアドバイスを聞きながら
寿司を握ります



上手に寿司を握っています



海苔巻きを切り分ける親達



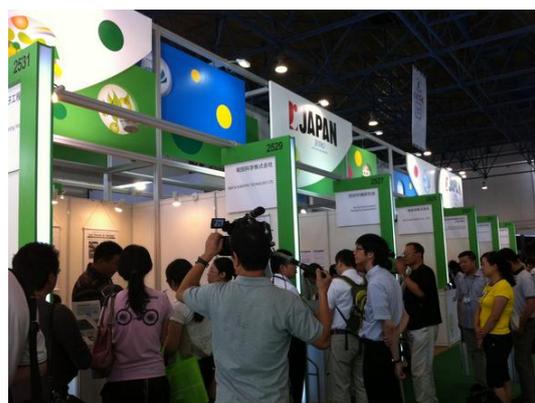
事務所職員が来場者に新潟の魅力を PR

第13回中国国際環境保護展（CIEPEC2013）が23日から26日まで北京の中国国際展覽センターで開催されました。この展示会は2年ごとに一回行われ、国際間の環境技術の交流や協力、海外企業が中国の環境保護産業に進出する大きなチャンスだと言われています。展示会では、水汚染防止、大気汚染防止、固体廃棄物処理、土壌汚染の防止と修復、環境モニタリング等に関する技術と機器が展示されていました。今回の展示会は20余りの国と地域の約500社の企業が集まったそうです。

周知のように、中国は近年、急激な経済発展に伴い、水・空気・土壌汚染等様々な環境問題が出てきています。特に昨年から大陸部の広い範囲で起きた深刻な大気汚染が海外のメディアにも注目されています。新潟県は環境分野に携わる県内企業の海外販路拡大をサポートするため、県内企業3社を集め、ジェトロが組織したジャパン・パビリオンに出展しました。会期中、多くの来場者が新潟県ブースに足を止め、固体廃棄物破砕機や小型バイオガス発電機について質問したり商談したりしました。（鞠）



展示場の外観



日本からの出展企業に対する取材



森副知事が新潟県ブースを視察



新潟県出展企業と商談中

「生みの苦しみ」中国経済

2013年第2四半期の成長率が発表された。第1四半期の7.7%を下回る7.5%だった。「想定内」(中国高官)のぎりぎりの線である。2012年の第3四半期が7.4%とここ数年の最低だったが、それに次ぐ低さである。中国政府は景気減速を前に、景気下支えのための財政出動を当面採らない方針だ。それはリーマンショックの時、マイナス影響を最小限に抑え、景気を下支えするために4兆元(中央政府のみの数字で、その他を含めると10倍の40兆元が投入されたと言われる)という巨額の財政出動を行った。超金融緩和である。この財政出動は確かに効果があったが、副作用も大きく、不動産バブルを引き起こし、物価を上昇させ、社会不安を引き起こしたという教訓がある。

政府は景気の回復と不動産バブルを見て、金融引き締めへ転じたが、それは中小企業をはじめとする基盤の脆弱な企業の資金繰りを悪化させ、「影の銀行」(シャドーバンキング)の蔓延を招いた。中国政府の債務は政府発表で対GDP15%だが、実際には50-60%と言われる。それでも国際基準では正常の範囲内だが、このまま地方政府をはじめとする「隠れ債務」が増え続ければ、巨額な不良債権が生まれ、中国経済は大きな打撃を受けることになる。

このような状況下、中国政府は一定の財政出動を行うのではないかとの見方もあったが、経済全般を指揮する李克強首相が採った方策は金融改革であった。7月19日、中国人民銀行(中央銀行)は突然銀行の貸出金利の下限撤廃を打ちだし、金融自由化へ大きく舵を取った。硬直した金利規制が「影の銀行」を増長させていると認識したからだ。

金融改革は早晚やらねばならない課題だったが、危険も伴う。金融の自由化の方向に進めば、銀行間に競争が生まれ、競争に負けた銀行は破たんする恐れが生じる。そうするとその銀行の預金者は被害を蒙ることになる。ある銀行が危ないと風評が流れれば、取り付け騒ぎが起こり、社会不安を招くことにもなる。預金保険制度などの預金者保護の体制がまだ十分整っていない状況下、金融改革先行は危険な賭けでもあるのだ。中国の預金率は高い。人々は銀行の状況を息をひそめるように見守っている。

さて話は変わるが、北京では日本の参議院選挙の結果が話題になっている。ほとんどのメディアが取材に走っている。主な関心事は3つだ。①大勝した安倍政権はどのような対中政策を採るのか。安定多数を獲得した安倍政権はさらに対中強硬路線を打ち出すのか、あるいは懸案である対中改善の道を模索するのか。②憲法改正はどうなるのか。中国にとって、憲法改正→自衛隊の国防軍化の先には「核武装化」、「軍国主義復活」が見え隠れするのだ。③当面の問題は、安倍総理は靖国参拝をするのか。特に靖国参拝問題は、多くの人が固唾を飲んで見ている状態だ。ある対日関係者は、日中関係の現状を憂い、「領土、歴史認識、東シナ海に、さらに靖国参拝が重なったら日中関係は終わりだ」と危機感を募らせていた。今年の日中平和友好条約締結35周年にあたるが、記念祝賀する雰囲気は全くない。日中

【筆者プロフィール】

西園寺 一晃(さいおんじ かずてる)氏
1944年生まれ

- 明治の元勳・公爵・首相・枢密院議長である西園寺公望氏を曾祖父に持つ。
- 西園寺公一(きんかず)氏(第一回参議院議員・日中文化交流協会常任理事)の長男。
- 北京大学経済学部卒業
- 朝日新聞社に在籍中は、日中関係の調査研究室長などを歴任。退職後も中国問題の調査、研究にあたる。
- 現在工学院大学客員教授、北京大学客員教授、伝媒大学客員教授、北京城市大学客員教授

経済関係は徐々に回復し、訪日観光客も少しずつ戻って来ているが、安倍総理の靖国参拝が実行されれば、何が起きるか恐ろしい気がする。

日本も中国も全力を挙げて経済に取り組みたいところだろう。互いに妥協、譲歩してでも不正常な両国関係の緩和の道を探してほしい。これが中国で苦勞しながら奮闘している日本企業の本心だ。

北京スタッフ便り

北京の地下鉄事情

今年の北京市統計局、国家統計局北京調査総隊による公表データによると、2012 年末北京常住人口は 2069.3 万人で、昨年末より 50.7 万人増加し、その内、北京に半年以上住んでいる外来人口は 773.8 万人、前年比 31.6 万人増加したそうです。

今回は、2000 万人以上の人口を有する北京の交通手段の一つである地下鉄についてご紹介します。

オリンピック開催に向け急ピッチで地下鉄建設を進めた北京には現在、1 号線、2 号線、4 号線、5 号線、6 号線、8 号線、9 号線、10 号線、13 号線、14 号線、15 号線、八通線、大興線、亦庄線、昌平線、房山線、空港快速の 17 つの路線があります。

夏休みに入った今、7 月平日の地下鉄乗客数は一千万人を突破しました。7 月 12 日の北京軌道交通全路網によると、17 つの全路線の旅客輸送量は 1 日 1104.69 万人に達し、2 号線、4 号線、6 号線、9 号線、10 号線、大興線、亦庄線、昌平線とも最高記録を出したそうです。その中でも 10 号線だけで 201.52 万人、乗客数は相変わらず首位で、乗客数が一番多い路線でした。

北京の地下鉄の料金は乗車距離と乗り換え回数に関係なく、一律 2 元で、中国の中でも低価格です。便利さだけではなく、安いというのは市民にとってありがたいことです。

地下鉄の乗車前にまず、X 線による手荷物検査があり、オリンピックから 5 年が経った現在でも、手荷物検査が継続されています。この X 線による手荷物検査は、空港でもよく見かける荷物検査と似ています。通勤ラッシュ時にはとても面倒なことです。地下鉄の職員が 2~3 名立っていて、手荷物検査をするようにと呼び掛けています。日本ではなかなか見られない風景です。

また、地下鉄の人込みは、東京の山手線並みで、もしかしたら、通勤ラッシュの時間帯はもっと込んでいるかも知れません。混雑している地下鉄に乗るのも大変ですが、降りるのも一苦勞です。入口のところに人が固まり、また「次の駅で降りるので、場所を変わってください」と言わないといけません。また降りる際にも「降ります。降ります。道を空けてください」と言わないと降りられません。また、早く降りないと、地下鉄に乗ろうとしている人たちに押され、降りられない事もあります。降りるのも必死、乗るのも必死です。車の渋滞も深刻ですが、人に押し押され満員の地下鉄に乗って通勤するのは簡単なものではないです。ある意味、体力勝負かもしれません。

最近のテレビでも、「ちゃんと並んで待ちましょう」、「乗客が降りたら、乗りましょう」、「ドアが閉まる際には次の電車に乗りましょう」、「車輦内での飲食はやめましょう」などと地下鉄の乗車マナーがよく話題に取り上げられます。地下鉄に乗る際によく見かけるのが黄色い服装をしたボランティアの人です。現場で秩序を守るように呼び掛けたり、東京と同じように人を押し込む仕事をしています。

大都会での暮らしはスピードやプレッシャーに追われる日々で、毎朝の通勤もかなりのストレスです。北京市もこういう現状をなるべく改善しようと新しい路線を次々と開通、

乗り換え駅を増やし、人の流れを分散しようと努力していますが、年々増加している人口に比べると対応が追いつかず、新たな都市設計が必要かも知れません。

もし、北京に来る機会がありましたら、タクシーに乗るのも良いですが、地下鉄に乗って中国らしい地下鉄を体験するのも良い経験かも知れません。(李)



地下鉄の外の入口まで行列（通勤ラッシュ時）



手荷物検査をするため並んでいる様子



X線による手荷物検査の機械

地下鉄1号線（撮影：7月22日17：45分）



通勤ラッシュ前の電車も人でいっぱい
（右がボランティアの乗車指導員のおじさん）